為書痴物語

一

へ 13
1893
4

1693

木木
木木

為忠卿和歌序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とゝのへもとけ〳〵もろもろんゝとゝたゞれと偽
仏教の尊をうやまひてそのおろそかにあらぬ
へしもとゝ尊び貴くうやまひて。ふかく〳〵ふたりて
是をきゝものとしへ。ゆれそうゝ海のたゝ。
あひはわるゝそひいうるぬそのへとゝあれて。
つまも仏教の化現としてゞごのうずいとあら
しのへゆれと思ひ。ゆれと彩ゝせんゝゝゝ海
へうゝまひひうへゝ海ひとりてゞいうゝよ
らんゝ。ゝまるへゝとうんゝゝゝれゞれも我執の悪し

て俗世界一切衆生ゝゝのゝゝるれゝもゝ
ゝゝれゝゝ教ゝ伝ゝゝ和讃のうゝしゝとゝん
ゝゝれゝゝぶゝ〳〵ゝゝぬゝのゝゝゝゝゝゝ。
あゝゝゝ入ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

らんとすること。好学の輩は、
分別をこゝにあすわの。魚業とあて。こゝにまつ書て。
仏法あのこゝ祈よいかうもまたかくみいてら
わらんぞこゝひわ書を後人のこゝろもあや
春秋つゝこゝとうやまひやうとこゝこと。
老也仏法もかうこゝ弱魚法こゝひへこゝろ
くしんるぞかくこゝ神れこゝまれて。
日月かくこゝあらんぞ法をこゝ。
かこうひやこゝこゝそ。ゆこゝのたうれこゝ

ゆこゝあこゝへてらあ
ぬ。こゝあこゝうゝ丸機根ゝ庶こゝてゆあこゝ
人もゆこゝのん法わこゝまこゝこゝこゝこゝこゝ
病のあゝこゝこゝ法こゝうゝれこゝ魚
もこゝもしべこゝうゝ人もこゝこゝんこゝてゆこゝひ
かこゝもこゝこゝ。こゝのこゝこゝ御こゝこゝこゝ
こゝへこゝこゝれこゝゆこゝ求智こゝもかこゝへこゝこゝ
こゝのこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
乃師こゝひこゝゆこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

めの張弱のことわりをもつてこれをあらはし
いるひとつてゝゆゑに銀斎のはるとこゝろ
のしるしぬるものなるべし

序

經世とは治國平天下の業をいふ也そもそも世に
業をするの時は物變して死生榮枯貴賤貧福其物
其事多端なり人生死の理を知り榮枯貴賤貧福
其物其事の變を知るこゝろを知るこゝろを
陰陽とは天地の道理なり陰陽の二ツはもとより
自然の理なり陰陽とは天地の道理なり陰陽
とは天地の間の陰陽なり陰陽とは天地の間
陽二ツ和合して天地中にあるもの生し
色和つ并りて天地の間の物産

[illegible]
陰陽の氣色相[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

第一　人乃[illegible]
第二　陰陽乃氣腹中一寸[illegible]
第三　[illegible]乃天命[illegible]
第四　[illegible]
第五　天[illegible]
第六　[illegible]
第七　[illegible]
第八　[illegible]
第九　[illegible]
第十　[illegible]

第十一　都鄙とつまやたして人と食ざる事

第十二　ものゝ志うとめよろやかなる事

第十三　貧しくして乏敷志をもてる天乃石の背中

第十四　天乃石しるる人なりつゝ志を蓄さる事

第十五　智恵をもて人をたらさる事

第十六　紫生乃石しる事

九曜の瓶物語巻之一

第一　人乃九曜の恵ハ陰陽より出る事

人乃一生善悪とゆゑんこゝろみるに陰陽乃二ツより
れこゝ出り陰陽ハ吹りして逆あり。逆すれ変まぢり変。
病変して長ぜ決。表ハ甲乙して表裏乃ものゝ
生じ味ひ酸。辛くして号し人乃肝乃臓して酸
ハ表と生生と。表裏ものゝ表を見る。
日もうくかゝして人乃ものゝいきみ。物毎りあくまま
ものゝ百日よりて。
汗丹ハ表裏表をとれぬ表を面下して裏をり。
あるゝ少成生一味ひ。ひゞくらしやう如来れ

ありぺの肉脱して黄泉湧出したるあり。裏面かうま
ひとなりいへども格段たるこあり。土用を成巳して
空方の角とより黄なる土とせ次ぎ。ちらひのくしも
人乃脳ハ脱中央。大日わうらいと号し一越湧出ひぐさはのと。
秋を庚辛として西成をもつぱらとし金と生し味ひ甘く。
あらうこと号し人乃脳ハ脱して平湧出るこあり。
秋毛草万木を実乃方和ゆるとこあり
ありぺうらうへは日月宿星をもんあるまるの
なるをもつてうくらぶやうどもあるまるの秋
しらうや西成のうわをもつて少成をもるを
さあ成生しこいうあさちひとる次ぎ人骨の脱

みしあり。盤湧出したる声あり。ぺ
万和拱　格りを変して又生成をくむ。ぺたしりをあ
とりは日沢曜ハしうたりこ。十二国絵ハ流指八車
ハ意よあうこうこ人の体又精血脱ハ勝。五者七彩ノ
月なを通り同じ天ハ十日月あれを新かしうを眼
とりてもぺ地よつちあを通ハ肉あり。美味生とれを毛
蟹とせ次ぎ石あれをりをぺ。ぺの花を血を注界よ火
あれいうを身あを火をぺるあうあへりあてうを注界う
風うて万和をうこうをはぺう身あをいをうてうくう
こはりぺをいも地あ火風をもの人をて生しぺをう
も地あ火風をのの人をとあうえぺ。ぺをもうて

うしもたらすなり。春夏秋冬とかうして。変化熱乃
ちとしてこれをものぶ。秋実乃
今ハ者世乃下根乃人ハ
よ一生のうちにとつくもんぶるひいてあるひ武ハ学問
としてこれを都乃ものとひつくんとしもつぶ春ハ
乃為ものこと。年まてハ家乃格熱乃
しこと泊のこと。一生乃ものとぶ
姑実のこんするるこ決ものこれとり。姑の実とうれと
乃乃色者武者ものうり今ぶたるひめしを陰
陽よりもしくハ。一生実者武ものけてこれ
ものこ。高熱乃乳江乃乃うるぶ。孫まんるぶ年

ものもたらすものこ陰陽よりたるものこ。ぶうんや人乃ものあ
とや。年本時代ものこ決実者と都くいうものこ。ものあ
さらこ未をものこ。ものしたものもあ
花者いうるものこ。ものものものこ
とものるものこ。陰陽乃二乃乃中と乃ものこ
さものたこ決ものこと。ものこ者秋二者乃ひぶんハ陰陽乃こ
陰陽乃中ものるものへよ時ものと長しぶものとものひ陰
生武移ものハ附ものこ。数乃定ものこ。ものものこ初めへ

第二　陰陽乃氣稲中一寸空より

陰陽乃氣人乃乃稲中ものうものこ一寸空乃内ものこ者ものて食武
乃ものこ長武乃ものこ。ものものこ武ものこ食ものこ。ものこ人ハ乃

あきのほとけあみだぶつ
中子大日如来
夏の子ぜんぜんぶつ

春の子ぜんぜんぶつ

くあみとのこと。あくこくあもあれもうこ死をう
くをみてあくくあつけうぞうあみ納りをつ如西伏
水くを。最西伏金をえよりをきをくくをを伏をを合
くあつけうぞを合地ち志のみ西伏仏んくを。みを
火金へ煙のこと。煙い彩う意てあのんぞ煙白
こを火ありもを天ん寸て志乃ち也ぞうい失しもあをを
あひ火へ如へるゆあ。ぞしもあのとをうをうあり
てあ雲と如西伏ちくあ井ま い失乃あてを伏てくを
火伏ちうしあ煙あ。ぞ伏ちるもてあみをくみ伏を
あして会を。意生とうれて仰あ。を狩よをうりを
ぞあてうくを彩ようを生くうあ如ぞしを如会

みをうもを身もあくを生れをうてをうるう如ぞう仰ちう生
し体ま信へ会んぞうをうへま狩ちうれを会もをまもれ
ちくありのんぞあをうつをきめれを煙ちう伏ちくし。真れんを
かもうくをきうてをうすてをちう死失乃ちし。世界玉
土をあうれを仏界を伏生界くいをうををれうるけうを
らのをうを。狩を生をれをんいを生を伏狩い死をれを
んい死を伏。ありをせ伏ちうをあを世伏ちをんん
あをへを。狩石れ中ち生をうをあをうを死失れを。あうをあり
をもあく。ぞをくをあうるくを因みをんくををして
ちあををあうをうをを伏石れ像いむあをれをる。火を
文をじをうをう伏。ちを海れ意をる石をを失乃ちを伏し

うちの　て新よつけぬれしあくの道新尾ぬれハ死
志うんなるうちうれしけれ神ハ新也神を地ゐ夫ハ宮ハ
つとめて生ー新をびめ月ゐたるうつ初也ゐたにハ
ハをもうるれ火ハくうて神と変るひ神うやう
といへとも神とまるとめくるつりうれハ魔さゞ百法
個ゐ月て個ゐうるうるの色ハ人ゆくゐ馬能ゆひり
もうるゐて色ゐへーうれと名付て年来ハ間ゐ名
或ハ食間乃西紙とも或ハ仏公仏性とも又ハ月ゐ
生人ハ花色ゐよゐつけて大年ゐうるても御ゐ法ゐよ
へてもゐう色もゐゐ色ゐ性ゐてもうれ法ゐ様ゐ濁ゐう
うるもうれゐうるゐへよ仏ハけ仏と法ゐ中ハ道化う

年ゐ人ゐへうり道ハ色土法ゐよゐ法ゐうるうれ色
真ハんハ間ゐよゐうるて仏ゐもゐ法ゐうりうるくゐう
ゐハうる成色業ハ仏ハ中ハ雲ゐうるれて真ハんゐうる
ゐゐりゐたゐへハ月ハひうりゐうゐうゐうゐへ
ゐも雲ゐハ法ハ色ゐうりとうーうるふううゐ。ゐゐ色へ会ゐ
うるて仏ゐるうるれて。眼耳鼻舌ハんゐ色ハ根ハゐすゐ
ざゐて色賀味触法ハ六塵の境ゐよゐうるひみうるゐ火
ゐうゐうるて色ゐ根ゐ色ゐ塵ゐ陰陽宣ゐうるゐ孔て会ゐ
ハゐ宣ゐ陽ゐうるゐ地ゐうれて陰陽ゐうゐうる会ゐよゐうゐす
や宣ゐ乃ハゐうれハ中ゐよ地獄ゐゐ格ゐうるハて。
彼妄会ゐうゐうて色ゐハ羅法ゐうり地獄ゐよゐうるゐ。

真代人民云人生れもちうるはれんせ会宗教をしてゆれく
りもとをもろ代と毒と毒と絶ぬ毒と絶ぬ毒と絶ぬ毒と絶ぬ毒と絶ぬ毒
於根代ありうしかるぬてとそひなどうぬるぬるそみ。
或ハうろこ或ハうろこ食穀鳥獣肉獣毒代つこうぐハ
皆毒会代るぬるぬるぐ。真代んうるあるぬるぬるよ。
毒ぐれてあるるぬ鳥代牧畜とぬ毒て仏あれ法とるす。
その毒代よんるもれてつこうけそとうるるる。毒とれる
とれる人ハ毒代んてもそもそもすぬ毒代みてもるそう
毒ぬ代もそもそ毒るもすぬ。方法を傷傷代ニつよゆうせある
て毒会宗ぬ代とうるり

第三　傷道天命九章

傷道とハ物の毒を皆天命ありとうるり天ハ人海
とうるる会とあるこ吹出すて道ありるに天命と云
毒ぬ中代代毒代しぬ円みもんぬぬるてぬるつ
生るぬ代毒代毒代毒三毒代毒代毒代しぬ毒ある
者すハ賞代ある人面毒代ハ冠ぬ天命ハあるう
くんえうぬ家とハてあんるぬ毒代毒代毒代冠毒代毒
と図毒ト　云ハ毒代つこの冠毒代毒代天命と毒代ハ図
毒こ毒毒天命代毒代毒代毒

くゝ人をれねをもちものうち胸中より流とたくます。
かゝりてをくなを。をの孔子を天命ふかくかをれなる教
よ蠱をり。西風をもしうさほの天のれをぎんあうをと
て教ゆまうをかを。をを紙あうこ先分とをうあうを
とあゝしくをておりゝゆうをるとゝや。倫理ふも若
子よをの門乃かをれを天命とおせる大人とかをる聖人
れをるゆとかをる。ぶ人ハ天命とをゝをとしてかをれて大
人よるれて聖人乃をゆすとあれをるゝいゝり。天命を
をゆを邪をゆゝやをゆん孔子をゆゆして天命を教和
ゝゝり識ゝりけをとゆくをりかをれてをあをるゝをい
ゝ人命しゝてよゝて。をむゝをゆいゆり

第七　仏法因果の事

仏法とは仏の事を因果あるとこいうりぞれを信人悪人
為善悪を勧めてこれをつくる成ぬくこぶんくとくるもも
乃或いふ色よ金銀とひろひ或いふ色ひ銭ぬんよ色うること
しあるあて一生大安楽うるこ法をぞうる智を
てらくあ成ぬり無念とかこ法者ゆとるして一生悪
ゆてくすものをふ為れこいあんよあひ安楽ぬつ
ミとかうあり或いは死罪流刑よおこあるるものあり也
八天命といふ云うて因果とい云うて前世の不
業報命冥伽年の業苦也天命とい云うて皆是
業とおうう法所うて悪あ也罪あるして死罪流刑

ゆ安あり多くしまうに罪人ぬ罪ぬいあり人ぬんせう志やう
八河年九おうしよ港せうまさせおうひんつうよ流うれさせ
ゆふ仏元八仏元生九ゆ先人の供養ゆ後るれを供年ハぞい
ぬ九おうしかんせうぞやうハ仏うんせあんるれを因果ゆあら
ゆ天命よわ人各ゆ九ゆ人ゆ九ゆ紙ゆ人ゆ紙を
為るよ云宗皇帝九拘係一切仏事梨年実九ゆうふよ
ゆ揭書妃ゆ為成ゆ悪ひて果報ぬへううれさせゆ紙
かうゆうる紙ゆと云るうゆ業ゆやうけん晴宗尼ゆ
かるむゆ世ゆふぞうかくいなゆ紙天台山九産ゆ明雲大僧正
八西光父子ゆ港よりて流ゆ九ゆ紙ゆんよあひゆふある
時明雲相ゆうあひゆて流りて会社九ゆんやうと

四のゝ桐者ゝ有る八生涯のかそれとハおもひ決まりきれ
身ゝてかりあをかく申ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
しかくゝ[illegible]ゝて白川殿本書義仲よかそうれさ
せるひゝ時ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝてうせるひゝとゝ[illegible]
陽雲安於[illegible]恭親ゝゝけゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝ

ぬしをつかまつりあれば大王法師にてをはしけるを
存命に儲せられけるゆへ物忌に籠て来門をとる。
大王打長奏にあそばしけるを仏奏ゆへ書
乃ち奏しをはしけるとなり。おそれ申る奏にて
内へ入られたまふ。奏れあるよつて
されば修せられる仏法奏なるゆへ切
との勅宣をそなへて梵つれ申しかゆへ
貴僧なり。乃つ奏にあそばしてゆつとられ
けるよ。典獄は皮勅宣をもつて
内へ大王に逆鱗をうけて行死宮て後三奏をくい
ちらりぶるる一云れ下はあやまり成ものひて朕

をもくらう次花大逆ありとして仏奏と云ぞ花
ありとあられそりぶてひゆつ花ありして死刑
めること。ゆえに勅業をやかりとんと思られを
しぶつをゆへとあるゆへ申ん七日乃
月宮に入奉命通成ぬて五宗成ふよゆつ前
生八科作をる田史なり大王れお生いなるよ怪怪あり。
此田史勅と見て表れ心田成りへしる時あやまりて嘲れ
さるして猛れ貴成切うしんされて今田史へゆつと生
猛る大王と生れぞ因果ようりてあやまりあり死刑
よりあるあられるとゆつ先ぞ世れ因果うれて
あらしへさまあり次ぞ平紀二奏に奏紀かられう

第六　自力他力

自力とは自ら思ひ思ひて自力にて成ることなり
也　是を發心修行と云ふ　自力は他力なくして
ひとりでやり一代切の事を自分他人の他力
とうけて自力しまつるとは云へども他人は他者
の他力をうけるとは云ふ　それは八万藥二万藥或は
三万藥或は千藥と書くなり　自力と他力とは
うつくしく人ちがひ　百年とうり出さまれば浄土界の他
力とは切るとうり浄土界の他力は自力と似ること

第七　許由巢父

ひとりあるとき許由人を笑ふ者は乃ちれいをよりやびり廣

れ無ぶんのうちよりゆ所由と云人さうらへよりあるたうある
物ゆく水をもまうそのうちまるを人のうらわくしてぴさご
と云ものをゆうせうりうれてぞう時本のうるさよかけ
てあるさうるよりはよりうれてあるとけうよりぴーうとて
をもをえをてうぴのゆいうちうをーりとうんかく
ゆうりうとなるさ笑人なるるとうをけまい帝竟さ
うーねとよられぴうるるとゆうんとの物使をもれて洋
由ゆうてゆしくゆ塩ゆうみるとようゆおまりさ人杉凡漢
あれ清うさ者のうこゆうてうゆか耳よ福失第宏れうう
さ代ゆ成ゆて耳ゆうれあるこうーうれて色をうあ
んあるうう顔門れ瀧よゆうて耳とわうみぴのりーロ山

中よ使けの巣文ーと云ゆ流して牛あうりんうて色
うてりけるよ代あるるもみうれう洋ゆんぴれ
ゆうくと答ぴう時巣をいうく笑人安成のうるを回
生未れうーくうり悔あうるゆ者きりーさゆぴうる
也ゆ下うゆをのうくぴうーうれと安成
巣ゆる明す工も色とりるるりーぎんち安成のうれん
と心りてゆんをゆうきゆみる任をして牛るれをうぴま
ーりるゆへよがるうりうを紀ゆうをゆるるぴゆうよけうれ
あるゆうて牛ゆうりーうて率て坤るかるゆうゆ笑
人うりうと入ゆうぴ者ゆまれうれうきうゆ倩ゆ人ゆ義の
うゆ荒れれ拉ゆりうとうけて笑ゆ主笑ゆまゆて安をとうく

民とあてゝうえうとゝくるとゝくるとゝくる

第八　梨軍支吾五ノ事

ある日一天竺金朱雀一人ぜんそうしんを引つれ一人分男をうめりぶとと梨軍ちゝを引しけり飛んでゝ
行こうり母ハ乳味とかやしりる梨軍支吾五ノ
指りわりて初めてせて食べ物ハ食べつゝ
都美しくこて食べり紙ろり家より流れ出ずこち妹
よ入る食とものよりみちてゆるふとこてさてハ
うれゆんどかて食べよ他ちやと心ひ紙ハ
都ハ赤ちうとうとり紙ハ赤ひて美味ハ
於都法中。快俊梵仏法師ハ若際とうまへ髪髪月ら
為てゆんれうちよぬ。ちれちの飛渓ハ果をえうち

まれともぬと食窮おるる事あるを次ちはよ弥飢
むあしくちけ色八生ものとかれ色とあられみるひて梨
窮を汚ものとともあひ異形語と語ふ二人れぬつもてよ
飢と立て飢ぬうけんとふくまひるるあに異形夫婦
給ふ雲霓と言ひて伏ようち合ふれとぬあり次飯
と行ふりて言ふりてあるりつもどんしともよ飢てそうり
ふ人語れ仲者ふるれ伏色とあられみるひてぬとうんと
味よともあひぬあらしく弥とこひぬるへぬ或い者ちり
金翅鳥ふてりてその弥と乳て大海ようへあるひい
何ふ天物十起あてぬ弥とうたひぬ井よりどんし
りあふへとぬ男子をち弥力とんあふへるへぬとく

人しうはりたりてを蜀呼ふとをとてうへけ
おぬそ一時とんし火をに惨慨して今い色あるてハ
食をへをるれしとて物飢ふるれ伏色とれいち
物ふんよへふり語れ伏色とあやしをひてぬとうん
しうおをと伏りとひをりふぬうせそん徒れ色
ようけていふくぬとんしうを去とみるようふあ出よ
一人ふ者ありぬとへ翼係と号す翼係あるに死て
液その妻悟仏施俺して二賓よ泊ふこ次ふ号。
出者子をといりてぬと宝物よあるぬ日ふをる
く関てお人と行るふ次飢て死ぬんとをふ乳そんて
女子よ向て食飢ふぬ子いれる眼飢ふて女とあんてい

ちくぶのくにとつのゆ　数りしあるぐぶんそ物をとりひ
ろ銭乃ちて銭をゆめさうとくいひて食物とあるへどされ
ど七日まあるる時つ升ま銭て死ね多切ぬらしとう
ちるへきかるりて今人中ま生とうこるぶとうんしびくを
あり。ひの銭沒ん果銭うちるるわ親三寅と絶せしまわ
てるりぶその分食り銭物とらしひるとりこてあせし
ゆい。母とりつやうせ一国果ましたるりしぶせうんを
うんしうるとをとしやりん銭をふとるれをぶゆもも
みるお者の業因乃明りるしやうけんぶ年銭三年銭九
数しりしりやしんえうち

第九　貧福とも沒世の苦いしあるさる事

富る人乃沒世ろいしあるこしむいへと迷ふ時乃ちる
しまよ仏ちり貧しきを人乃いしあるこしむいずぐ
分河のちるこまよ仏ちりぶいずてらしきもぞりそを
河しきもしぶれうちるるるるりぶさいへと
あのしまれどびとうしまどふまのたちんちるこき
時をぶしもうとうけてやもまんしあるみまのこを。
ふちるものりうちあるりぶちるしくをもこちるいへ
うしりちより貧あるくあるるりんやうもむしるもあり
とぶれを日れりうちるこそうれよあるぐぶ石ふこ
しとうけて屋とむ屋ぶまのやぶれもをもむ人ま
をりしこへあひりるいへとも年みるうへ

[illegible]

第十　貧福は人による事

貧福は只人による事なり。[illegible]

而かるに今世の人[illegible]

[illegible]

[illegible]

きてめてたきそめ
ありりゆうんてらい脇門より家りりゆひ
ゆくるまやこと時主人田民出すまへい家あて耕し弟と
れるへい名跡ありて家りて孫ひりりひいきごと主人花よあふ
ゆこと外ーぞれい名跡書れてりりへいきぽ位ようれ
りりあへきるゆりてしる拾へゆりべーぽ母い孫母こて
ようる弟ん家ーよ世ぱつる死んねよ父贅史ようたりて
主死とこ孫位へきりりことめりこ位ゆ家くり
ようぶりいへりぽ主死父ともりりみ位母弟ん家ども
いりりんぽ著ゆりものりりつりりれいぞへ主とはれれりりひ
て死民ゆりーゆりりよりやあゆりりる民死くりねぬ

りれさせゆりひ流よ世ようゆ ひぬぞれと寿父母とゆーあい
んあるよ歴山よりて耕ようぽ北乃人時とゆりり家澤
よりりりて漢ぞりる浦乃人長民拾りる幸位ゆ家い
一年あれて過とゆーー二年あれ死ゆ人ぽ方民ようの流と
あゆりて耕りあゆりるゆ主ひりへよ天ゆ民ゆりり拾
屋ようりりぽりてりれと長主ゆ舌へ
ゆり。家約れ今よいりるゆまてぞりりりりる聖人賢人ま
りりくいゆりりて一代ようりりりりりりりりりりりす
りりゆ郷ーぽ人像ゆりる悪人悪病ゆ紹ゆまりて世とた
ゆ代ようりりりりる位ようゆ一代冨実ゆまりて家い
ぞ妻とりりいりる人とりりへりりんりりりりりりりりりりり

時を矢猪の人よりとて、ふよりうる所あり。
ものぬすびとすぐれと吹出して高らかにわらへば。
人のもとひ和して高らかにわらへ
吹出してまつ〳〵きいわれしもひ和してまり
しきいわくこあるさりれかりひとりぺ物人をぬへ
第十一　家をつくりて人と食さる事
或人曰天れあるこのかめるる限をもつて物をな
利りうをもりて花鬘と物ぺるる身れるとひろくも
ちりて石色とるしぺと金ん山ちるるとつて
まやりて花鬘あるりとるりそけぺ乃あるへのあれ
れるるの紙つまりうて色といるさんまるる。

とるる見て塩酒義和ところをぺ脇と物ひ入
とうけてぺもち身をるりとのぺ強色とる
て色とあのこまるこんしるとい義和紙帯し禁し
身とつ〳〵ぺ熱中色あり又義出して病ぬ。板禁
色ぬるんよりぺ色ぬて面ものと物て色りあそ
色紙あのて金紙と物んしるい面りまかそれて。面
金紙数を流四面まして
しいひるしぺ色ぺ色るぬ多なるあり

第十二　嫂り姑よ

大流ち真珠居宗統乃意
を申し嫂り姑よるやあるる事

人を仏ちうあらかしこ
くよりあり雖よ仏乃ちうえん窟のまやちうえんぞうを
やとさけるくゝへんもまもらめいれんまあらくゝ字えるを
ゝとぞれ人の親とてまりとうあうえんうやまふ人と河
をのそくゝへんもをもちうえいなやぞうとめとそよ
めれめくゝをしる人をぞよめれうをとてあうぞ児と
てあうちうあるちうひまよくあゆ人もちうめかしこを
小児れとてまり智恵とてもちるあうめたりふ人も
をしめい元文乃ちうあるあ天下れ和の上をとて勤誠の
れかゝしとけうる人をちうえんぞ誠乃勤れて人をめど
とんかくめめちうとれいぞ誠を人を仏よりれよやあんぞの

第十三　貪して財を知らざる人は天代を忘れむ事

貪りて財を知らざる人は天代を忘れ、
財を知りて貪らざる人は天代を忘れず。
人の花簾を見て、
己れ美色を思ひ、
人の美色を見て、
己れ美色を思ひ、
人の美色を見て、
己れ美色を思ひ、
人の美色

たりくあるこうこをおもうるんうちをはなるふ
うしとんくこうはんたるもとゆくいり

第十八　智恵ハ人毎にあるもの

智恵ハ人毎にあるものなれども用ゆる事ありがた
ものこころびのちうざとなんとるたるとんてとよりね
ともこうあるこうねうるこうわさは初めのかよりねす
ひこかりこうかりこうあるこうまじきもの用ゆるこうざ人
るれかよこうねこうのこうあるたの人のかよりねこて
しけよりこうこうひこうこうへこうたとこてわるかぶ
ねこうこうやしへこうひ柳ものこうみこうれ花こて
とのこうこうれかれこうれ

第十九　農生れたる事

まれ一と勢言葉遣へ沒りこんこうこ時ちくずれ沒
こうこうこうこ

派あるくあるくうのもれとぬぬぬ

るもくをて。農生丸名成命ありて。色と利口ことにかう
丸人命成りこれなりてあるてこうをて。邪丸よ命とりけ。
あるひは雅よ陰陽師よいりて。或へ物命とかうをて。彩
猪しに。茶を一二服乃こうて。驚乳をけまいたしいこうう
もるもくをて。醫師ともを。へるもくをてんさ
くくあるてこうをて。食成りむこうを。四ぱこうを。汐
よを。沙と。謙よいとんこうを。色ひとへよ。為ありて。空
業丸をこうくこうる命也。ちゆくそんよ。者。醫師とこうを。
といへとも。接抱ゆれほとんすて。流よ。激交とこうをへる
ものかつへこうく。秦丸。始皇帝へ。食成りくりこのひて。
冥金丸こうひを入ごとて。者よ。浪乃あることこうぱよ。強て

あしこぞ有りよ洪乃藥花とうき閉裏八花とうきと三里た
く雲紙志のきてつきあ咸陽宮とくあつけてぞ月
よ住のひ栄咲とうめうせ多人数よあとうくいまうめ
わ死乃果紙のく光んゐぞうりりとつうり書男牛女
とう也。蓬莱文へ海ーのひーよ蓬莱とんたハはるやうへ
らーとて舟乃内すていうう月日と送りられた。
だうくううて文ようくしるうとゐと。絶形ぬけうこ
とてみうう海ようかの人絶形乃とあうあ多
舟乃内すてのうこ為とうけさせるひて七日若痛過
過して流よ海ぬ丸年・蓬すして藤海ぬひーとた。
上我乃仏神拝絶ぬ人を宮業乃たハうれうせるうんハ

んや未世ぬうんゞにおのてとや元とまゞよへうと次ぞいう
ゆくハ久新二文ぬの咲者紙ハ八ぞ殺ハ法皇ハ八ぞ殺ハ毒殺ぬ
とかりて殺文絶殺ぬ。すして殺毒二世殺ハりうとう
ゐるよ拾殺ハりうせんよいうく。ゐんぬ秋乃ぞるる
最弔うへーとぬうくぬ皇ハりよかすハ
次絶毒ぬくよゐるまて皆いう紙うーあひなうと
あうーのひうりさうハハうて蓬莱三社
ハりにおようて毒社よゐまてうう次あうるよ紙と
ううて元ゐ紙ーまりうとへーぞるる国二ヶ宮鏡
うして永代ハ宮ぬとうへーぞりり三年ぬ冷泉と更
させうへく法乃利宮とうけうぬくよハうさいうれ

とも。拾遺ひろはれてはべりけるせんよ。宣旨くだりてはべりけるとて
てよりまりあるこゝハ拾遺ちりぬるかよ。ふるもかよ。ふるこゝ
をいとこゝ。ふるこゝ。ふるこゝ。ふる

あに弟にしのがるれば家をもちてそなたさまに養はれ
かとゝ指ちれ人ゝ名をもちまれいまれぬるこそ命代い
かりてそこ〻なへよもせぬまでもなほ年うせて世界
もろ〻とゝもに最後もしるよふなりうんされて彩
墨代の物大病そなたがの物さうなの奇よ
出るれとあるうしのひうんなのゆれ
うれとうんもるをそ命歌を利
鶯歌七句よあまもと男歌ゝ涙駆季屋つゝ二
人ゝ平れ扶持るを耐つあよ筆を出れ謀すてと
つをそなのひ時ようをひるうをうん又吉田れ美好
う領よあうんがとゝ子年ともを涙ゝも一歌

れ歌乃ん花そをへを位をてぬせ人すをきすをう備
をそ物ゝをん命ゝをを秋を解女ーとうまゝ年
ようをけるを藤ゝをるをゝるれをもおを死をうう
をそを物ゝもまをてをんーをををけをそをの
うひを命をあゝをん代まをて生れをちゝ乃ゝを
み代乃ゝれんをゝをを発れ仏拝をるをん農生
乃ゝ日夜よをするへゝ次